

第2回

「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」 検討委員会設立準備会

目 次

1. 第1回の議事内容	1
2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題.....	5
3. 目指すべき目標(案).....	22
4. 対応方針(案).....	23
5. 対策メニュー(案).....	24
6. 今後のスケジュール.....	33

1.第1回の議事内容

1. 第1回の議事内容

「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」検討委員会設立準備会 設立趣旨

○近年、交通における環境負荷の低減の追求、健康志向の高まり等を背景に、自転車の利用ニーズが益々高まりをみせている。一方、自転車に関係する交通事故は減らず、自転車がより安全で快適に通行できる利用環境の創出が求められている。

○平成24年4月「安全で快適な自転車利用環境の創出に向けた提言」が策定され、同年11月には、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が策定された。

○一方、富士北麓地域では、平成25年6月の富士山世界文化遺産登録後、来訪者が増加する中でサイクリング体験ツアーが行われるなど自転車が注目を集めており、サイクリングコースの紹介をホームページやパンフレットで行っているが、安全で快適な利用環境の整備が十分であるとは言えない状況にある。

○そこで、富士北麓地域において自転車による広域的な周遊観光を促し個性ある観光地として確立させ、来訪者の増加による地域活性化を図るため、「自転車の利用環境を充実させる」構想の策定および実施が必要である。

○そのため、安全で快適なサイクリングが楽しめるよう、道路管理者と観光関係団体が連携し管理者が異なる各道路において、統一した自転車利用を促進させる「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」を策定する必要がある。

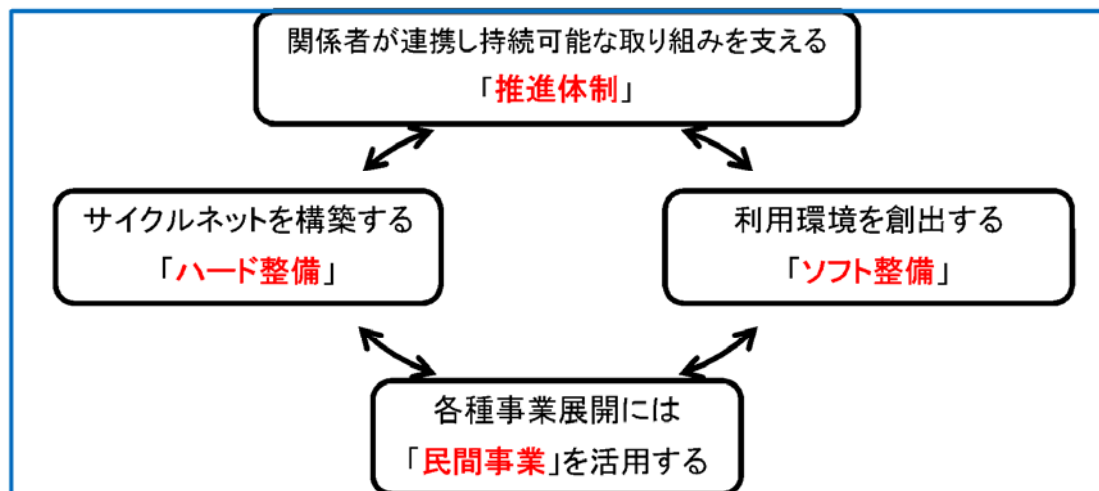
○「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)」は検討委員会を設立し策定するが、検討委員会設立にあたり諸課題の整理を行うことを目的に「山梨サイクルネット構想(富士北麓地域)検討委員会設立準備会」を開催するものである。

1. 第1回の議事内容

(1) 富士北麓サイクルネット構想の目的、策定について(前回内容一部再掲)

- 多くの観光資源を持つ富士山周辺にて「自転車による周遊観光を促す環境づくり、新たな観光スタイルの創出」を行う。
- 構想策定には、行政・観光団体等の関係者が連携し、自転車が利用しやすい環境を整え、民間事業者の投資を促す。

■事業展開のイメージ



○構想策定には検討委員会を設立する。また、検討委員会設立にあたり諸課題の整備を行う目的で検討委員会設立準備会を平成27年2月9日に設立している

第1回設立準備会(H27.2.9)

- ・富士五湖周辺7市町村
- ・山梨県

第2回設立準備会(H27.10.2)

- ・富士五湖周辺7市町村
- ・山梨県

検討委員会(今年度内3回)

- ・外部アドバイザー
- ・観光協会・商工団体
- ・交通事業者
- ・富士五湖周辺市町村
- ・警察
- ・国土交通省
- ・山梨県

1. 第1回の議事内容

(2) 前回の準備会での主な意見と今後の対応

- 前回の準備会(平成27年2月)での主な意見と今後の対応について以下に示す。
- 頂いた意見を踏まえ、今後の検討を行うこととする。

▼前回の準備会での主な意見と今後の対応

前回の準備会での主な意見	今後の対応
サイクルネット構想は、ハード・ソフト両面の推進を図るとのことであるが、ハード整備においては、新設整備のみか、それども既設の補修なども含めて考えているのか。	予算面では、大規模な新設整備は難しいと考えており、既設の補修等を主に行うと考えている。また、補修は、優先度を検討して行う。
自転車ユーザーのレベルはどう考えているのか。	ソフト・ミドル・ハードといったそれぞれの段階に応じて、構想を検討する。
検討委員会のメンバーは、どの様に考えているか	頂いた意見を参考に、検討委員会メンバーを検討する。
ターゲットをインバウンドを考慮した場合、公共交通機関からの観光が主となる。そのため、当地域では鉄道・バス事業者である富士急行を構想策定にどの様に参画してもらうかが課題。	そのような事業を構想に取り込みたいと思い、検討を行う。
将来的には、交通事業者を巻き込み自転車施策が推進できればと思う(自転車をバスに積んで運行することやサイクルタクシー等を想定する)	
富士河口町では、河口湖から本栖湖それぞれ4箇所の拠点を作り、乗り捨て可能なレンタサイクル事業を行う計画が今年(H27.2)から具体的な検討を行うところ。	

1. 第1回の議事内容

(3) 富士北麓サイクルネット構想の工程計画

- 平成27年10月に富士北麓サイクルネット構想検討委員会を設立し、年度内に3回開催する予定。
- 検討結果等を踏まえ、H28年度から各種事業展開する予定。

▼富士北麓サイクルネット構想の工程計画

	H26				H27				H28				H29				
サイクルネット構想 委託業務					H27.3.31~H28.3.15												
サイクルネット構想 検討委員会準備会					H27.2設立 構想素案等検討												
サイクルネット構想 検討委員会							■ H27.10 設立(案)										
							■ H27.12 第2回開催(案)										
							■ H28.2 第3回開催(案)										
各種事業展開										■							

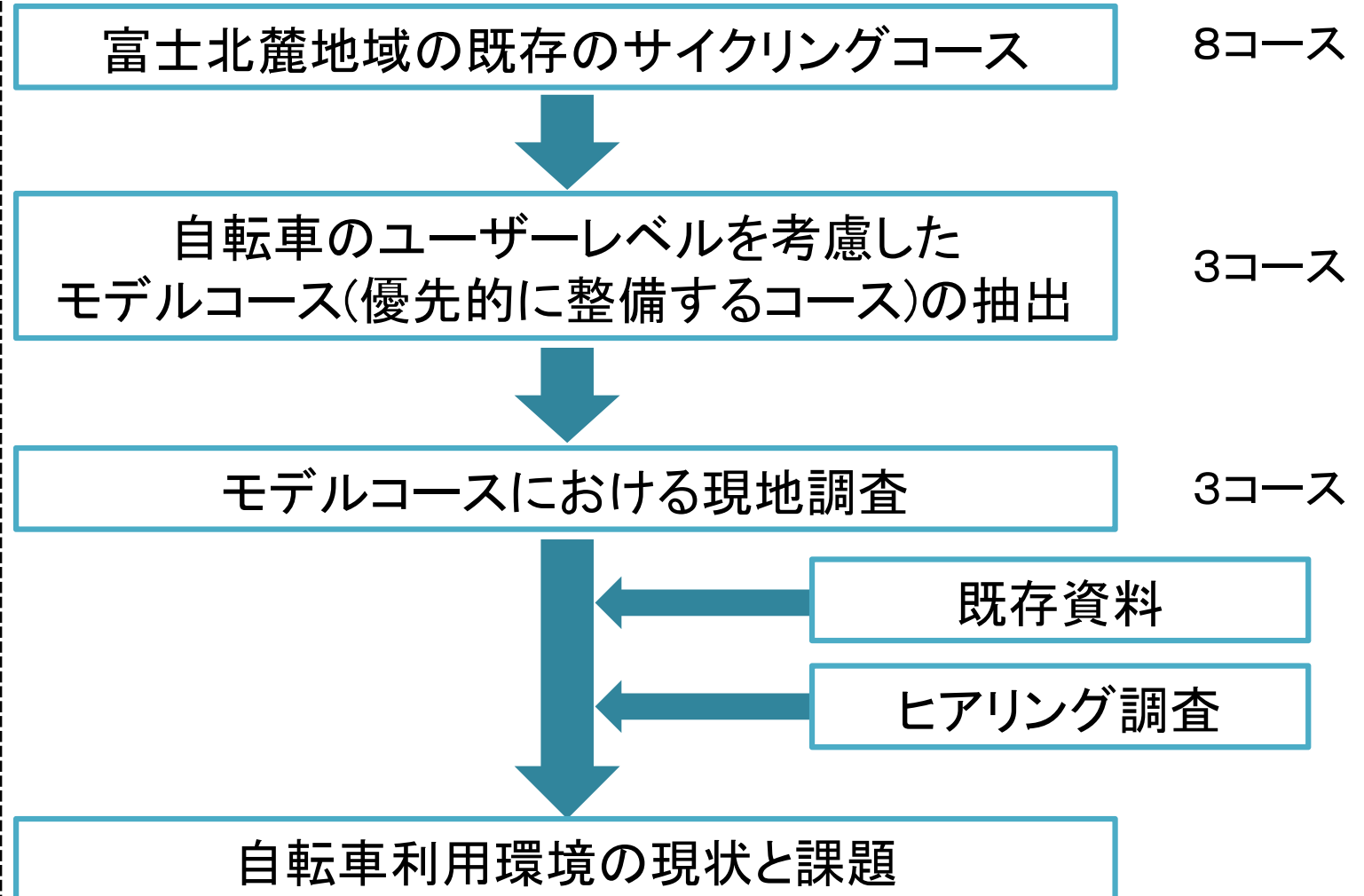
2. 富士北麓地域における 自転車利用環境の現状と課題

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題

(1) 検討の流れ

- 富士北麓地域には、現在、サイクリングコースが8ルートある。
- 前回委員会の結果を踏まえ、自転車のユーザーレベル(上級・中級・初級)を考慮して、優先的に整備するコース(以下、モデルコース)を設定し、現地調査により自転車利用環境の現状を把握。
- 既存資料やヒアリング調査(富士河口湖町、山中湖村)を踏まえ、富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題を整理。

▼サイクリングコースが記載された
富士五湖サイクリングガイド



2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（モデルコース抽出）

(2) モデルコースの抽出方法

- 富士北麓地域における既存コースから、利用者レベル(上級、中級、初級)を考慮しモデルコースを3コース抽出
- モデルコースの抽出方法を以下に示す。

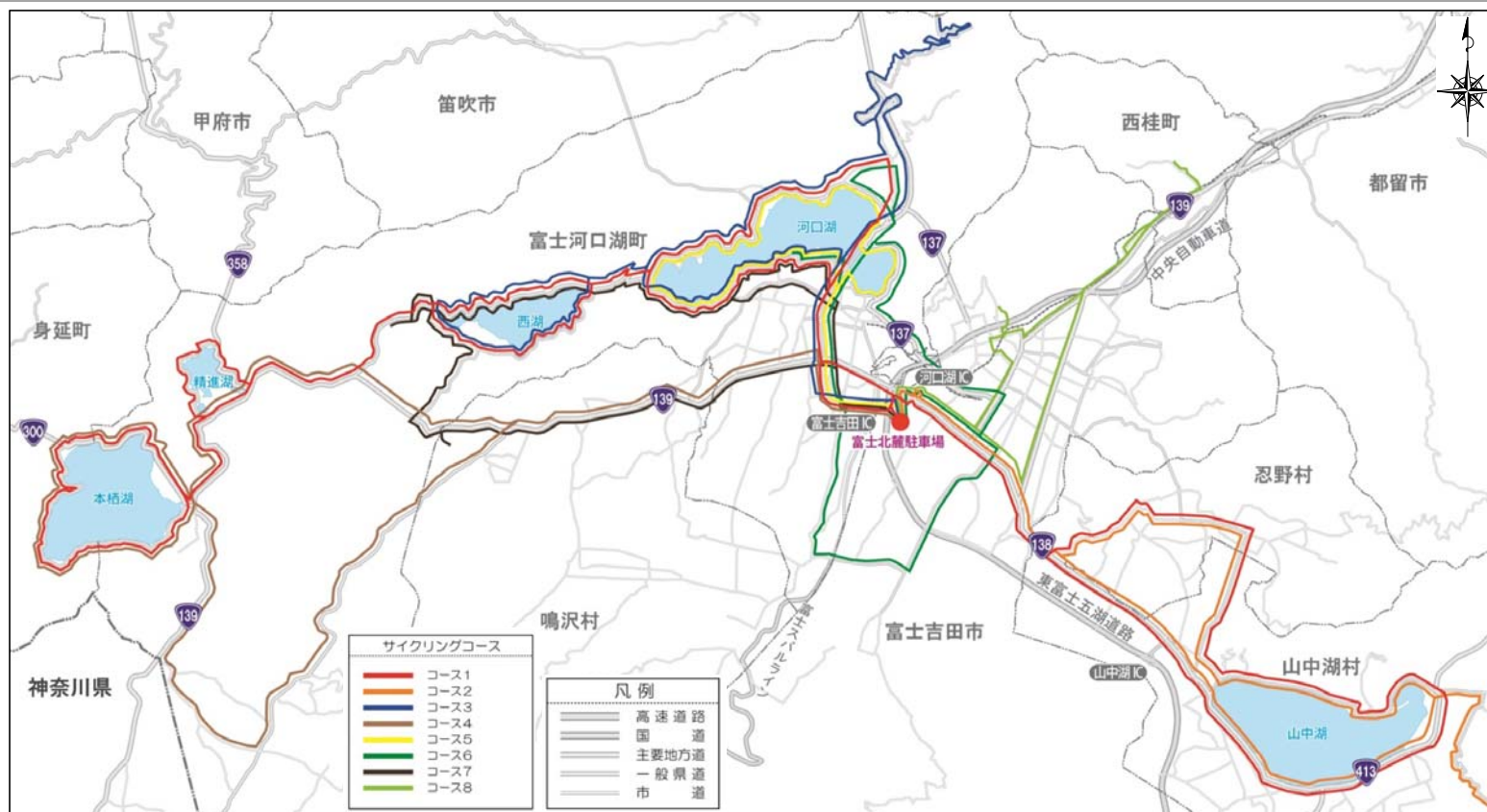
■抽出方法

- (1) 富士北麓地域における既存の8コースを上級コース、中級コース、初級コースに分類
- (2) 抽出項目を設定し、各分類(上級、中級、初級)で代表1コースを選定

【抽出項目】

- ① 自転車利用者レベルに応じ、適切な走行距離と標高差が設定されているか
- ② 走りやすさ(自転車走行環境)
- ③ 迷わず周遊可能かどうか(分かり易い案内標識の有無)
- ④ 観光資源(世界遺産富士山の構成資産の箇所数)
- ⑤ 走行時の景観

■既存のサイクリングコース (8コース)

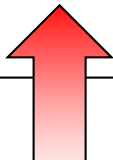
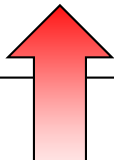
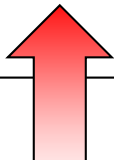
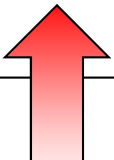
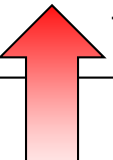



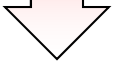



2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（モデルコース抽出）

(3) サイクリングコースの分類

- サイクリングコースは、利用者の特性（体力、速度、距離、標高差、技量等）により、嗜好が異なる。
 ○富士山・富士五湖観光圏整備推進協議会発行の富士五湖サイクリングガイドに記載されたレベル(★)を参考として、既存コースを3段階（上級コース、中級コース、初級コース）に分類。

■利用者の特性イメージ

	体力	速度	走行可能な距離	標高差	技量
上級者	 強い	 速い	 長い	 高い	 高い
中級者					
初級者	 弱い	 遅い	 短い	 低い	 低い

■既存の8コースの分類

コース	レベル※	走行距離	所要時間	標高差	分類
コース1	★★★★★	約110km	約6時間	約720m	上級コース
コース3	★★★★	約59km	約4時間	約534m	
コース4	★★★★	約60km	約4時間	約579m	
コース2	★★★	約48km	約3.5時間	約423m	中級コース
コース6	★★	約36km	約2時間	約301m	
コース8	★★	約27.4km	約1.75時間	約337m	
コース5	★	約26km	約1.75時間	約93m	初級コース
コース7	★	約33km	約2時間	約227m	

※富士山・富士五湖観光圏整備推進協議会発行の富士五湖サイクリングガイドより

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（モデルコース抽出）

（4）抽出項目と基準

○サイクリングコースを抽出する抽出項目及び抽出基準は以下の通りとする。

※「①適切な走行距離・標高差の判断基準」については、群馬県のサイクリングコース分類基準を参考した。

■抽出項目と基準

レベル	①適切な走行距離・標高差※		②走りやすさ	③分かり易い案内誘導の有無	④観光資源	⑤走行時景観
	走行距離	標高差				
上級コース	約70km以上	上限なし	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間※が確保された区間が長い方が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングコースに対応する案内誘導サインがあり、迷わず周遊できる方が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース上、世界遺産富士山の構成資産箇所数が多い方が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士北麓地域ならではの景観を堪能できる方が望ましい。 ・走行時の景観の変化に富んだ方が望ましい。
中級コース	約30～70km	約500m以内	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の路肩走行と想定し、自動車の交通量が多い(4,000台/12h以上)区間が短い方が望ましい ・路面の凸凹が少ない方が望ましい 			
初級コース	約10～30km	約200m以内	<ul style="list-style-type: none"> ・初級者の技量を踏まえ、自転車の自歩道走行と想定し自歩道のある区間が長い方が望ましい ・路面の凸凹が少ない方が望ましい 			

※自転車走行空間：自転車が走行するための道路、又は道路の部分をいう。

※ 群馬県のサイクリングコース分類基準＜参考＞

	距離	高低差	平地での平均速度	レベル表示
上級者向けコース	約70キロ以上	上限なし	約18km/h	（上級）
中級者向けコース	約30～70キロ	約500m以内	約14km/h	（中級）
初級者向けコース	約10～30キロ	約200m以内	約10km/h	（初級）
ファミリー向けコース	約10～20キロ	約100m以内	約6km/h	（ファミリー）

出典：群馬県HP

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（モデルコース抽出）

(5) 抽出結果

- 上級、中級、初級の各分類内で相対比較を行い、代表コースを選定。
 ○上級・中級・初級コースは、それぞれコース1、コース2、コース5として選定

■サイクリングコースの抽出結果

分類	コース	抽出項目① (適切な走行距離・ 標高差)	抽出項目② (走りやすさ)	抽出項目③ (分かり易い案内 誘導の有無)	抽出項目④ (観光資源)	抽出項目⑤ (走行時景観)	得点	選定
上級 コース	コース1	◎	○	×	◎(9箇所)	◎	11	●
	コース3	○	◎	×	○(4箇所)	○	9	
	コース4	○	○	×	△(1箇所)	○	7	
中級 コース	コース2	◎	◎	×	○(3箇所)	◎	11	●
	コース6	◎	○	×	◎(6箇所)	○	10	
	コース8	○	○	×	△(2箇所)	△	6	
初級 コース	コース5	◎	◎	×	○(1箇所)	◎	11	●
	コース7	○	◎	×	◎(2箇所)	○	10	

凡例：◎：3点、○：2点、△：1点、×：0点

【参考】サイクリングコース抽出の一例

参考



抽出項目① (適切な走行距離・標高差)			抽出項目② (走りやすさ)			抽出項目③ (分かり易い案内誘導の有無)		抽出項目④ (観光資源)		抽出項目⑤ (走行時景観)		得点
走行距離	標高差	評価	自転車走行空間	交通環境	評価	分かり易い案内誘導の有無	評価	コース上世界遺産富士山の構成資産数	評価	走行時景観	評価	
約48km	約423m	◎	山中湖、忍野八海周辺はサイクリングロードが整備されている。また、歩道の整備がある区間が多い。	国道138号の自動車交通量が多く、路側帯走行時の錯綜が予想される。また、コース前半の道の駅富士吉田までの歩道部分は、ひび割れ等が見られた。	◎	なし	×	3箇所	○	忍野八海周辺の自然や富士山や山中湖を堪能できる。山中湖サイクリングロードなどに走行環境の変化がある。	◎	11

抽出モデルコース

上級コース:コース1
中級コース:コース2
初級コース:コース5



サイクリングコース	
	コース1
	コース2
	コース5

凡例	
	高速道路
	国道
	主要地方道
	一般県道
	市道

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（現状の把握）

（6）現地調査の視点

○モデルコースを対象として、自転車の走行環境、周遊案内環境、自転車観光の受入環境の視点で自転車利用環境の現状を調査した。

＜調査の目的＞

- ・富士北麓地域において、サイクリングコースが設定されているが、現地における案内誘導、注意喚起等のサイン整備や自転車走行空間整備などのハード整備が十分でない面があるため、多くの人々が安全で快適に自転車を利用できる環境が整っているとは言えない。
- ・富士北麓地域において安全で快適なサイクリングが楽しめる自転車ネットワークを構築するため、管理者が異なる各道路において、統一した自転車利用促進計画を定め、自転車利用環境の充実を図るため、下記に示す視点により現況把握し、課題抽出することを目的とする。

▼現地調査の視点

自転車の走行環境	○路線の代表的な横断構成
	○整備候補箇所の現状把握 →走行空間の連続性が未確保の箇所の現状把握 →幅員が狭いことによる、自転車の走行が困難な箇所の現状把握 →路面クラック等による快適性が未確保の箇所
	○車道横断部等の危険箇所の把握
周遊案内環境	○サイン設置の現状把握
自転車観光の受入環境	○自転車受入環境の現状把握 →駐輪・休憩施設の有無 →レンタサイクル貸出箇所の把握等

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（現状の把握）

（7）現地調査結果

- 現地調査結果から各コースの現状を整理。
- それぞれのコースで共通している内容も多い。

▼現地調査結果まとめ

分類	現状	コース分類		
		上級 コース1	中級 コース2	初級 コース5
自転車の走行環境	○山中湖湖畔、忍野八海周辺にサイクリングロード※1が整備されている。	●	●	—
	○他にコースとなる路線では、独立した自転車走行空間※2が整備されていない。	—	—	●
	○コースとなる路線では、1m未満の路肩のみの区間が多い。	●	●	●
	○国道138号、国道139号では、交通量が多く、大型車や大型観光バスが多い。	●	●	
	○路面の老朽化による、平坦でない箇所が存在	●	●	●
	○河口湖湖畔の自歩道※3では、歩行者の多い箇所が存在。	—	—	●
	○連続性のない箇所が存在（自歩道が途切れるや路肩の幅員が急に縮小）	●	—	●
	○横断しなければならない箇所では、横断歩道や注意喚起サインが設置されていないことが多い	●	●	●
案内周遊環境	○進行方向が分かりづらい箇所が存在	●	●	●
	○主要道路や著名地点への案内があるが、サイクリングマップのコースに対応する案内がない	●	●	●
	○多様な法定外案内誘導類サインが存在	●	●	●
	○多言語に対応していない案内誘導サインが存在	●	●	●
自転車観光の 受入環境	○コース上、世界遺産富士山の構成資産等観光スポットには、駐輪施設がない	●	●	●
	○自転車利用者の休憩・補給・修理をするサイクリングステーション（拠点）がない	●	●	●
	○コース上自転車の休憩施設（ベンチ、コンビニ）等は湖畔や国道に集中	●	●	●
	○レンタサイクルは山中湖、河口湖湖畔に集中	●	●	—
	○レンタサイクルの種類はシティサイクルとマウンテンバイクが多い	●	●	●
	○乗り捨てができるレンタサイクルシステムがない	●	●	●

※1サイクリングロード：独立した自転車走行空間のことをサイクリングロードとする。

※2自転車走行空間：自転車が走行するための道路、又は道路の部分を用いる。

※3自歩道：普通自転車歩道通行可の交通規制が実施された歩道。

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（現状の把握）

参考

【参考】案内誘導サインの現状

- 富士北麓地域では、下記に示す案内誘導類サインが設置されている。
- 法定外の案内誘導サインは、濃い茶色や木製のものが多く、デザインは統一していない。

分類	法定内		法定外	
案内誘導類	方面及び方向の案内板		市町村名	
	著名地点		観光スポットの案内看板	
	国道番号			
	—	—	案内柱	
	—	—	案内図	

【参考】案内誘導サインの現状

○富士北麓地域では、下記に示す警戒・指示類標識が設置されている。法定外の警戒・指示類サインの設置が見当たらなかった。

分類	法定内	法定外	
警戒・指示類	ト形(又は逆ト形)道路交差点あり		法定外の警戒・指示類サインの設置が見当たらなかった
	右方(又は左)屈曲あり		
	落石のおそれあり		
	動物が飛び出すおそれあり		
	駐車禁止		
	車両進入禁止		
	最高速度		
	追い越しのための右側はみ出し禁止		
	指定方向外進行禁止		
	自転車及び歩行者専用		
	一時停止		
	一方通行		
横断歩道			

【参考】自転車観光の受入環境整理の一例



2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（現状の把握）

（8）ヒアリング調査

○富士北麓地域における自転車関連施策の現状及び課題を把握するため、富士河口湖町と山中湖村にヒアリング調査を実施した。

○調査結果は下記に示す。両市町村では、今後、多様な自転車施策の展開を検討する予定。

■ヒアリング調査の目的

富士北麓地域における自転車利用ネットワークの構築や自転車利用に関連した観光施策の現状・課題等を把握するため、関係機関ヒアリング調査を実施した。

■ヒアリング調査対象

ヒアリング先	住所	TEL	FAX
富士河口湖町	〒401-0392 山梨県富士河口湖船津1700	0555-72-1111	0555-72-0969
山中湖村	〒401-0595 山梨県山中湖村山中237-1	0555-62-1111	0555-62-3088

■ヒアリング調査内容

- ①自転車走行空間の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見
- ②案内誘導の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見
- ③自転車観光の受入環境の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見
- ④PRの現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見

■ヒアリング調査結果

調査内容	ヒアリング調査結果
①自転車走行空間の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・山中湖畔にサイクリングロードが整備されているが、国管理区間がまた整備中なので、山中湖一周のネットワークは未形成である ・その他、コースとなる路線では、独立した自転車走行空間は未整備である ・向上策について、富士河口湖町では、雑草の除去、老朽化箇所の補修が必要と認識している。
②案内誘導の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コースは富士箱根伊豆国立公園内に位置しているから、案内誘導サイン、看板等新設する際に、自然公園法に基づき、環境省に許可の申請が必要である
③自転車観光の受入環境の現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、コース上に自転車用の休憩施設、駐輪施設は未設置であるが、今後、そういった施設の設置を検討する予定 ・現在、山中湖、富士河口湖湖畔のレンタサイクル業者は各自で運営しているが、将来、レンタサイクル業者をまとめ、乗り捨て可能なレンタサイクルシステムの構築 ・富士河口湖町では、今年度から自転車観光に関する調査を実施し、その結果を踏まえ、向上策を検討する予定がある ・山中湖村では、国管理区間の整備が完了後、多様な向上策を検討する予定である ・自転車の持ち込みができる宿泊施設が少ない
④PRの現状、将来計画、課題を改善する向上策への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、自転車観光に関するPRは未実施であるが、今後実施すべきPR策を検討したい。

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（課題の抽出）

(9) 自転車利用環境の課題

1) 自転車の走行環境

○自転車通行空間が確保されていない区間や、老朽化により走行性が劣る区間が存在する。

▼自転車の走行環境の現状と課題

分類	特性	現状 (データ整理、現地調査、ヒアリング)	課題
自転車の走行環境	<ul style="list-style-type: none"> ○観光地であるため、休日に交通量が集中 ○広域交通では、中央道、富士五湖道路が整備されている。 ○鉄道では、富士急行大月線、富士急行河口湖線が存在し、河口湖駅とJR大月駅が結ばれている。 ○高速バスでは、新宿、名古屋と結ぶ路線がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○山中湖湖畔、忍野八海周辺にサイクリングロードが整備されている 現地 ヒア データ ○他にコースとなる路線では、独立した自転車走行区間が整備されていない 現地 ヒア ○連続性のない箇所がある(自歩道が途切れるや路肩の幅員が急に縮小等) 現地 	○自転車走行空間が確保されていない区間が存在
		<ul style="list-style-type: none"> ○コースとなる路線では、1m未満の路肩のみの区間が多い 現地 ○国道138号や国道139号等コースとなる路線では交通量が多く、また、大型車や観光バスが多い 現地 データ 	○狭幅員路肩における車両との錯綜の危険性
		<ul style="list-style-type: none"> ○河口湖湖畔の自歩道では、歩行者の多い箇所が存在 現地 	○自歩道区間における歩行者との錯綜の危険性
		<ul style="list-style-type: none"> ○路面の老朽化による、平坦でない箇所が存在 現地 	○劣化した路面状況により走行性が悪い区間が存在
		<ul style="list-style-type: none"> ○横断しなければならない箇所では、横断歩道や注意喚起サインが設置されていないことが多い 現地 	○車道横断時の危険性

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（課題の抽出）

(9) 自転車利用環境の課題

2) 案内周遊環境

- 自転車利用者に対する案内が統一されていない。
- 外国人旅行者に対する案内が不足している。

▼案内周遊環境の現状と課題

分類	特性	現状 (データ整理、現地調査、ヒアリング)	課題
案内周遊環境	<ul style="list-style-type: none"> ○全国有数の観光地であり、自然、歴史等多様な観光資源がある ○世界遺産富士山を有する地域 ○夏期に観光客が比較的に多い ○インバウンド(外国人観光客)が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○進行方向が分かりづらい箇所が存在 現地 ○主要道路や著名地点への案内があるが、サイクリングマップのコースに対応する案内がない 現地 ○多言語に対応していない案内誘導表示が存在 現地 ○多様な法定外案内誘導類サインが存在 現地 	<ul style="list-style-type: none"> ○サイクリングコースに対応し、かつ統一した案内がないため、スムーズな周遊ができない

2. 富士北麓地域における自転車利用環境の現状と課題（課題の抽出）

(9) 自転車利用環境の課題

3) 自転車観光の受入環境

- 多様なニーズに対応する受入環境が整っていない。
- 自転車観光に関するPR策の不足。

▼自転車の受入環境の現状と課題

分類	特性	現状 (データ整理、現地調査、ヒアリング)	課題
自転車観光の受入環境	<ul style="list-style-type: none"> ○全国有数の観光地であり、自然、歴史等多様な観光資源がある ○世界遺産富士山を有する地域 ○夏期に観光客が集中 ○インバウンド(外国人観光客)が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○コース上、世界遺産富士山の構成資産となる観光スポット等には、駐輪施設がない 現地 ○自転車利用者の休憩・補給・修理をするサイクリングステーション(拠点)がない 現地 ○コース上自転車の休憩施設(ベンチ、コンビニ)等は湖畔や国道に集中 現地 	○自転車による周遊に対するバックアップ施設が不足
		<ul style="list-style-type: none"> ○レンタサイクルは山中湖、河口湖湖畔に集中 現地 データ ○レンタサイクルの種類はシティサイクルとマウンテンバイクが多い 現地 ヒア ○乗り捨てができるレンタサイクルシステムがない 現地 ○自転車の持ち込みができる宿泊施設が不足 ヒア 	○環境、選択が限定的で、多様なニーズに対応していない
		<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通では、輪行袋に入れていない自転車の持ち込みはできない データ ○起点は富士北麓駐車場に設定されており、当該駐車場に至る交通手段が限られている データ 	○自転車の持ち込みを考慮した公共交通機関が整備されていない
		<ul style="list-style-type: none"> ○サイクリングコースの紹介をホームページやパンフレットで行っている データ ○その他、自転車観光に関するPR策について、富士河口湖町、山中湖村は、今後検討する予定がある ヒア 	○多様なPRが展開されていない